

## 「食のバリアフリーを考える ～冷凍食品と視覚障害者～」 調査結果について

### 1. 調査主体

公益財団法人すこやか食生活協会

### 2. 調査期間

平成23年8～10月

### 3. 調査方法

「すこやか食生活協会」が発行している録音雑誌「声の食生活情報」8月号(全国の視覚障害者数千人が利用)の聴読者に協力を呼びかけ、応じてくれた方の自宅に、アンケートとサンプルの冷凍食品を送付し、本人またはご家族やヘルパーさんなどの協力のもと、調理・試食した後に回答(回答数110名)。

### 4. 調査内容

#### (1) 冷凍食品に関連する知識について

①保存方法、②栄養価、③衛生面、④賞味期限、⑤認定証マークの認知度

#### (2) 冷凍食品の利用状況について

⑥利用頻度、⑦利用品目、⑧購入方法、⑨情報の入手方法、⑩選択基準、⑪調理は自分で行うか、⑫食品表示の確認方法、⑬冷凍食品に対する意識

#### (3) 冷凍食品の使い勝手について

⑭開封性、⑮調理、⑯味、⑰使い勝手、⑱今後の利用について、⑲要望

## 《結果のポイント》

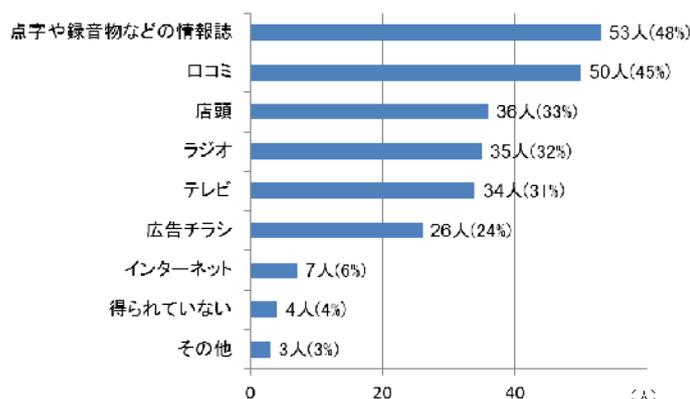
### 1 冷凍食品に関する知識について

保存温度と賞味期限及び認定証マークに関連した質問において、「知っていた」人が大多数となりました。これは、高齢者調査(昨年度に当協会が実施した調査)と同じ結果ですが、しかし「知っていた」人の割合は、視覚障害者のほうが一般の高齢者よりもすべてで高い結果となりました。視覚障害者は、目から情報が得られない(得にくい)ことから、情報障害者とも呼ばれますが、そのハンディをのりこえようと、情報を得ることに努力されているようです。

### 2 情報の入手方法などについて

冷凍食品の商品に関する情報など、何から得ているかについて多かったのは、「点字や録音物などの情報誌」(48%)、次いで「口コミ」(45%)、「店頭」(33%)、「ラジオ」(32%)となっています(問11)。回答者は当協会の録音雑誌(食生活情報誌)の利用者であることから、「点字や録音物などの情報誌」が最も多くなりましたが、一方で、「(情報が)得られていない」と回答した人も4%いました。当協会の録音雑誌では、個別的商品情報(商品名や値段など)については、あまり取り上げることはありませんので、そうした情報を音声で提供することも、有益なのかもしれません。

”あなたは、冷凍食品の商品に関する情報など、何から得ていますか？



### 3 調理について

#### ◆調理方法について

冷凍食品の調理に関する質問に対して以下の図の通りとなりました。上記の質問で「自分で調理する」及び「時々は自分で調理する」と回答された方に、さらに「購入する際に、どのような調理方法のものを選ぶようにしていますか？」と質問したところ、最も多かったのは、「電子レンジで温めるだけで作れるもの」(82%)、次いで「自然解凍」(36%)で、「フライパンや鍋で加熱するもの」との回答が35%あったことから、これらの調理器具もかなりの人々に使用されていることがわかりました。

#### ◆調理方法などの表示の確認方法

「調理方法など袋に書かれている情報は、どのようにして確認していますか？」との質問に対してやはり多かったのは、「家族やヘルパーさんなど、他の人に読んでもらっている」(82%)でした。その他、「拡大読書機やルーペなどを使い、自分で読んでいる」(20%)、「同じ製品ばかり利用しているので、調理方法などは確認しない」(15%)、「確認せずに勘で作っている」(13%)となりました(問14)。冷凍食品の調理は自分でしているが、袋に書かれている情報は、他の人に読んでもらっている人が多いことがわかりました。

#### ◆電子レンジの使い方

視覚障害者の生活訓練施設の職員などの話によると、電子レンジの使い方について、よく使用するボタンに凸印のシールを貼ることによって、ボタンの位置が触って分かるように工夫したり、調理の際には、少しずつ温めることによって、温めすぎを防いだりといった工夫をされている方も多いようです。

### 4. 使い勝手について

#### ◆うまく調理できたか

つぎに、「上手に調理できましたか？」という質問に対し、「上手にできた」(78%)、「なんとかできた」(19%)、「失敗した」(3%)でした。なお、「失敗した」人(グラタン1人、コロッケ2人)に、どんな具合になったか聞いたところ、グラタンで失敗した人は「皿に移さなければならなくなった」ようです。また、コロッケで失敗した人の一人は「破裂した」、とのことで、温めすぎたのか、もしくは電子レンジのボタンを押し間違え、オープン機能で加熱した可能性があります。もう一人の方は、「油で揚げると思って、油で揚げた中身が出てしまった」ようです。

### 5. 要望について

#### ◆要望

指で触ってわかれば・・・ 30人

- ・ 点字(凸印)を活用してほしい。  
(中身が区別できる。調理方法・時間・賞味期限がわかる)”

音声でわかれば・・・ 8人

- ・ 音声コードを考えてほしい(QRコード、バーコード、音声チップ、※SPコードなど)。
- ・ 製品情報は、録音物でも情報提供してほしい。

※SPコードは、視覚障害者用活字文書読み上げ装置の音声コードです。

弱視でもわかるように 5人

- ・ 調理方法や賞味期限などは、見やすいように大きな文字・数字で色彩のコントラストもつけてほしい。

視覚障害者にとっては・・・

- ・ 外袋に商品名などの点字（点字シール）もしくは点字の説明書がついていれば。 6人
- ・ 中身を小分けにして利用しやすくしてほしい。 5人
- ・ 再封のためのジッパーをつけてほしい。 3人
- ・ 調理方法を簡単にしてほしい。 3人
- ・ 電子レンジ調理とオーブン調理の区別がわかるようにしてほしい。 2人
- ・ 電子レンジ調理品を増やしてほしい。 2人
- ・ 調理冷凍食品が役立つ。 2人
- ・ 惣菜類を増やしてほしい。 1人
- ・ 自然解凍で使える製品を増やしてほしい。 1人
- ・ 商品名がわからない。 1人
- ・ 誰かに聞かなければ使えないのは不便。 1人
- ・ 調理方法が確認できる電話サービスがあると助かる。 1人
- ・ 揚げ物調理は難しいので、フライなどの冷凍食品は重宝している。 1人
- ・ 音声ガイド付きの電子レンジを増やしてほしい。 1人
- ・ 乾燥剤が入っていないことは他の食品にくらべてとても安心。 1人
- ・ 小袋などが添付されてあっても、それが何なのかわからない。 1人
- ・ 開け口をわかりやすく。 1人

(N=110 自由回答)

## 【参考】

以下では、「すこやか食生活協会」からの紹介による視覚障害者バリアフリーに関する取組事例や提案です。

- ①パッケージに印刷されているバーコードを音声化する
- ②販売店において「QRコード」を作成して添付する
- ③開け口をあけやすいように「大きな切り欠き」にし、背景色を目立つよう「縁取り」する
- ④開け口をタテに切ると、あまり深く切り込めず、中身も出しにくいので、深く切り込めるヨコで切れるようにする

### 「バーコード音声化参考事例」



製品名：スピーチオ ライフ 販売元：株式会社 廣済堂

### 「QRコード参考事例」



生活協同組合おおさがパルコープのプレスリリースより